



就農を志す5人が入所

J A就農支援センター6期生

内田 宗宏さん(八女市平・33)

今まで家業の提灯づくりをしていましたが、心機一転、別の家業を立ち上げようと考えました。さまざまな職業について検討した中、農業が最も将来性があると思い就農を志しました。提灯は分業制なので、時として自分の思い通りにいかないこともあるけど、農業は自分のペースでやれるので良いし、自分の性格にも合っていると思いました。あと、誉田哲也著の「幸せの条件」という本を読んで農業に憧れを抱いたのも志望動機のひとつです。

川田 悠斗さん(埼玉県・22)

幼いころからものづくりや植物を育てることが好きで、農業という作物を育て多くの人に食べてもらう職業に魅力を感じ、「将来は農業をやりたい!」と思い就農を志しました。また、大学生のころ、九州旅行をしたときに福岡の土地に惹かれ、この福岡県ハ女の地で農業をやっていきたいと決意しました。大学も関東で、方言というものにほとんど触れ合わずにこちらに来たので、最初はハ女の訛りに驚きましたが、早く覚えて自分でも使えるように頑張ります(笑)。



就農への想い

川島 潤矢さん(久留米市・32)

小さい頃から、将来は何かを創り出す「職人」になりたいという思いと「経営者」になりたいという思いがあって、その両方を叶えられる農業という道を選びました。農業を目指して、さまざまな説明会や体験に参加させていただきました。その中で、JA就農支援センターでは、栽培技術を実践形式で学べるだけでなく、知識まで座学で学ぶことができる事を知りました。また、卒業生の方々が就農して優秀な実績を残されているので、私もハ女地域農業を担う生産者となれるよう、1年間、情熱を持って研修に取り組みます!

以前は、飲食店で働いていました。体験農園で野菜作りをして農業に興味を持ちました。就農へ向けていろいろなところを回りましたが、親身になって相談を聞いてもらったり、研修内容・施設の充実ぶりなど全てでJAふくおかハ女が一番良かったです!同期の仲間、指導していただき先生、JA営農指導員さんとの出会いに感謝し、1年間の研修で学んだことをしっかり自分のものにします!おいしいイチゴを生産することで地域社会の一員となり、食を通じて社会貢献に努めたいです!

天ヶ瀬 章さん(兵庫県・38)



天ヶ瀬 章さん

川島 潤矢さん

上野 聖子さん

内田 宗宏さん

川田 悠斗さん



第6期生が就農へ向け研修をスタート!

J A就農支援センターでは、新たに就農に意欲を燃やす第6期研修生5人が入所しました。

6月1日に開いた入所式では、JAや行政などの関係者らが見守る中、5人がそれぞれの意気込みを発表しました。式後、いよいよ就農へ向け研修がスタートしました。

実習では、農機具や生産資材の使用方法をはじめ、準備・管理・収穫作業といった栽培に関するすべての作業を研修。また、座学では土壤分析と施肥設計、農薬取締法と農薬系統の種類、簿記や税務、融資と補助事業内容などを学び、就農に向けた経営計画の作成なども行います。

入所式では、1年間の研修カリキュラムなどの説明を行い、第6期生5人がそれぞれの意気込みを発表しました。

研修生の1人、川島さんは「一つの道を究めた職人になりたい、経営者になりたいという夢を抱いて『農業』の道を志しました。しっかりと収益を上げられる確かな技術を持つた職人であり、経営者となれるよう1年間しっかり学びたい」と意気込みを語りました。

北島良男JA営農販売常務は「農業者になる、経営者になるというのは並大抵のことではありません。1年間の研修でしっかり学んでほしい。農業の専門用語なども最初は分からぬと思うので、分からないことはすぐに茅島先生や営農指導員に尋ねてください。それと合わせてハ女弁も勉強してもらえれば笑。これから暑い中の農作業になりますし、生産者は身体が資本ですので、体調管理には留意して研修に励んでほしい」と激励しました。

第6期生は、イチゴ生産者を目指す天ヶ瀬章さん、上野聖子さん、内田宗宏さん、川島潤矢さん、川田悠斗さんの5人です。